

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス いきるちから2		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 26日		2026年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 26日		2026年 2月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 9日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	5領域を意識した集団レクリエーションを毎日実施している	・どの曜日に利用されても、一度はその活動へ参加していただけるように予定を組んでいる ・スタッフ全員でモニタリング(振り返り)を行い、情報交換をする中で目的にあった活動内容を検討している(月に1度のレクリエーション会議)	・日々の活動や個別の取り組みを通して、一人一人の特性や課題を評価、周知し、職員全員で同じ目的を持ちながらも、職員それぞれの強みを生かした多方面からの支援ができるように意識していく
2	個室の環境を利用している	・個別や小集団での取り組みの際、周囲の刺激が気にならない環境で実施するようにしている	・個室はどのような時に使用するのかを明確にし、「ここであったらできるかも(落ち着けるかも)」と取り組みへの自信や安心感に繋がられるような使用の仕方を意識していく
3	地域交流にも積極的に参加している	・ふれあい喫茶や子ども食堂へ行かせていただき、地域の方々との交流を図る中で、社会的なルールを身につける経験を促している	・参加することが多いため、今後はお世話になっている方々をご招待できるような、自分たちが準備して接待するという新しい経験を積んでもらえるような取り組みを検討し、参加した楽しさや喜びだけでなく、やりとげたという達成感を感じていただけるような活動を検討していく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○就学時移行の際、小学校や特別支援学校等との連携の機会が少ない ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	・保護者からの依頼を受けて(個人情報持ち出しへの同意が必須)動き出すことが多いため、積極的な連携の機会が少ない	保護者に対し、園や学校との連携は児童の支援を行うにあたって重要な手がかりになったり、偏った考えだけのアプローチにならないためにも必要な情報となりうることを、必要に応じて積極的に動いていきたい体制でいるということをお伝えしていく
2	○ペアレントトレーニングの取り組みや、保護者参加型(保護者同士やきょうだい同士での交流の場)のイベントの機会が少ない	・職員自身が専門的なペアレントトレーニングの知識を備えていない現状があり実施できていない現状がある ・保護者参加型のイベントは開催しているが、定期的には行えず、また参加意向には偏りもあるため開催することへの難しさがある	・保護者の意向も開催にあたって重要なポイントとなるため、その都度確信したり、アンケートをとるなどし必要とされる方に対しては実施していけたらと考える ・職員が外部研修に参加したり、開催している事業所の情報を聞きとりするなどの動きを作っていきたい
3	○地域児童との交流の機会が少ない	・屋外活動にて公園遊びをしているときなどは、地域の児童と一緒ににおごっこをしたり、遊具の貸し借りなどで交流を図る機会がある ・事前に打ち合わせをしてその時間一緒に過ごすような関わりをもつ機会がない ・地域へのつながりは大人同士では少しずつもてようになってきているが、対児童になると難しさが先行すると考える	・地域の大人の方との連携から、児童に繋げる術などを模索していく ・地域の児童が集まる場には職員が参加させていただくなどし、その中でいきるちからの児童との交流を設ける場を作れるような働きかけを行っていきたい